

# JIS

## 未加硫ゴムロータレス密閉式レオメータを用いた粘度及び応力緩和の求め方

JIS K 6297 : 2020

(JRMA/JSA)

令和2年11月20日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## 日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒井 信介	横浜国立大学
(委員)	秋山 進	株式会社デンソー (公益社団法人自動車技術会)
	安部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	市川 直樹	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	伊藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
	大瀧 雅寛	お茶の水女子大学
	奥野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	鎌田 実	東京大学
	木村 一弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	木村 たま代	主婦連合会
	佐伯 誠治	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	椎名 武夫	千葉大学
	寺家 克昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	千葉 光一	関西学院大学
	寺澤 富雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	奈良 広一	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	西江 勇二	一般財団法人研友社
	久田 真	東北大学
	福田 泰和	一般財団法人日本規格協会
	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
	棟近 雅彦	早稲田大学
	村垣 善浩	東京女子医科大学
	山内 正剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
	山田 陽滋	名古屋大学
	和辻 健二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 2.11.20

官 報 掲 載 日：令和 2.11.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本ゴム工業会

(〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル TEL 03-3408-7101)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 原理	4
5 試験装置	4
6 試験装置の校正	7
7 試験片	7
7.1 試験片の採取・作製	7
7.2 保護フィルム	7
8 試験温度	7
9 試験方法	7
9.1 概要	7
9.2 試験片の取付け	7
9.3 粘度試験	7
9.4 応力緩和試験	8
10 結果のまとめ方	8
11 試験精度	9
12 試験報告書	9
附属書 A (規定) 試験装置の校正	10
附属書 B (参考) 試験精度	12
附属書 JA (参考) せん断弾性率とムーニー粘度との相関性	14
附属書 JB (参考) JIS と対応国際規格との対比表	23
解 説	25

## まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本ゴム工業会（JRMA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

# 未加硫ゴム—ロータレス密閉式レオメータを用いた 粘度及び応力緩和の求め方

Rubber, unvulcanized—Determination of viscosity and stress relaxation  
using a rotorless sealed rheometer

## 序文

この規格は、2012年に第1版として発行された **ISO 13145** を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JB** に示す。

## 1 適用範囲

この規格は、原料ゴム又は未加硫配合ゴムの一定条件下での粘度及び応力緩和の求め方について規定する。

**警告 1** この規格の利用者は、通常の実験室での作業に精通していることを前提とする。この規格は、その使用に関連して起こる全ての安全上の問題を取り扱おうとするものではない。この規格の利用者は、各自の責任において安全及び健康に対する適切な措置をとらなければならない。

**警告 2** この規格で規定している試験を行う上で、使用する物質、生成する物質及び廃棄物が、環境に及ぼす有害性を考慮し、取扱い及び廃棄を含む全ての行為に関しては、これらの関連する法令・規制要求事項に従う。

**注記** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

**ISO 13145:2012**, Rubber—Determination of viscosity and stress relaxation using a rotorless sealed shear rheometer (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

## 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

**JIS K 6200** ゴム—用語

**注記** 対応国際規格：**ISO 1382**, Rubber—Vocabulary

**JIS K 6300-1:2013** 未加硫ゴム—物理特性—第1部：ムーニー粘度計による粘度及びスコーチタイム  
の求め方